

(4) 林内路網の整備

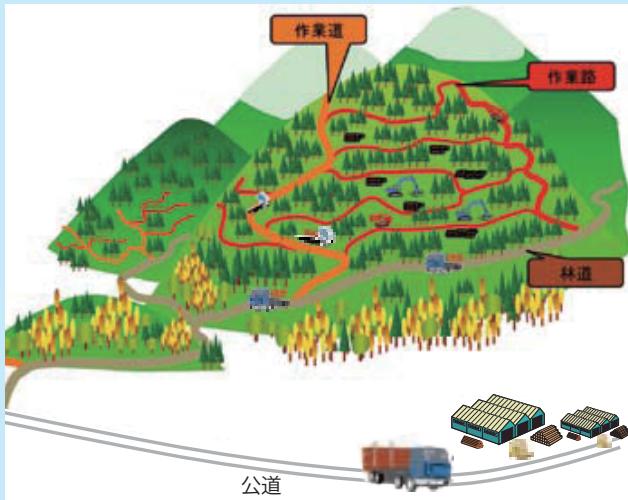
路網は、林業の最も重要な生産基盤であり、林道・作業道・作業路を現地の条件に合わせて整備していくことが重要です。人工林の場合、架線系作業システムで林道・作業道を30m/ha、車両系作業システムでは作業路を含めて全体で100m/ha以上の路網の整備が望ましいのですが、我が国では、地形が急峻などから約17m/haとなっています。

路網の整備に関しては、線形や道幅等の柔軟な設計によって切土高や切

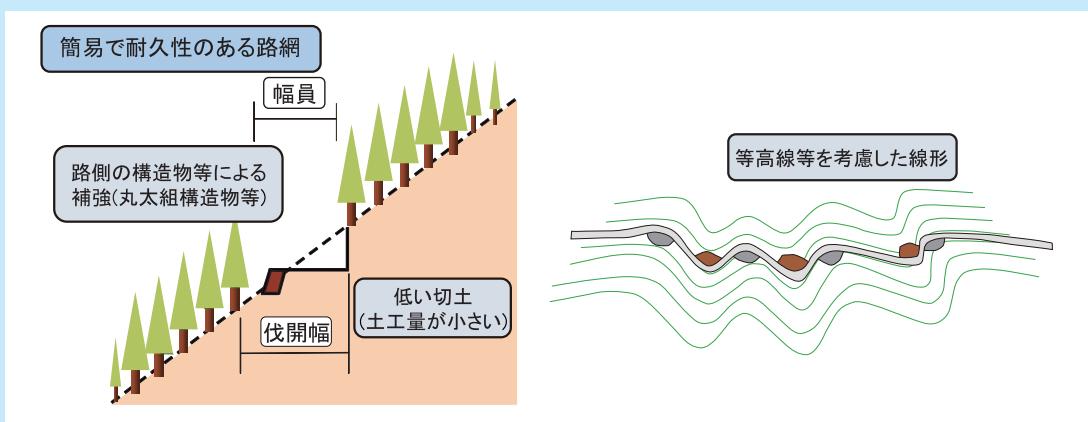
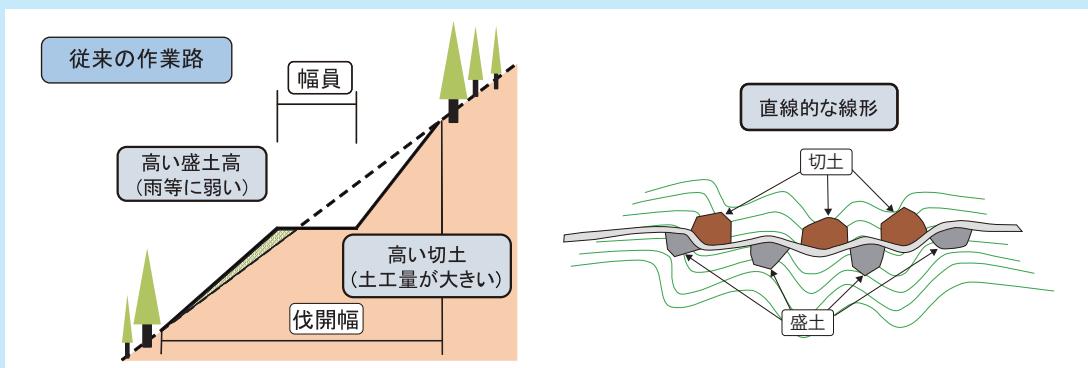
盛土量を抑制するなど簡易で耐久性のある構造で開設する技術の蓄積が進んでいます。我が国の森林の傾斜分布は育成林の6割が30度以下、3割が30~40度となっていますが、このような開設技術の蓄積に伴い、機械走行が可能な作業路について30~40度程度の斜面での開設事例も見られるようになっています。

簡易で耐久性のある構造の路網の開設に当たっては、現地の地況や林況の十分な把握に基づくルート設定・施工等の高度な知識・技能が必要なところ、技術者等の養成が課題となっています。

路網の種類ごとの目的と役割のイメージ



簡易で耐久性のある路網の基本的な考え方



3

生産性向上の 条件整備と 国民の支援



林業の生産性の向上の取組を進め
る際には、施業の集約化や人材の育
成などの条件整備が必要になります。
また、伐採・植栽・保育等という林業
のサイクルを円滑に循環させていくた
めには、生産された木材が適切に利
用されるよう、木材の安定供給体制
の整備や木材の需要拡大を図つていく
ことも重要です。

林業関係者全体によつて、造林・保
育から素材生産に至る各段階での林
業の生産性の向上に向けた取組が着
実に進められ、林業が再生していくこ
とが期待されます。この際には、森林
の将来の姿や利用・保全などについて
幅広い観点から合意を形成し、林業
の再生と森林のもつ多面的機能の持
続的な発揮を確実なものとしていく
ことが求められます。

レイアウトを刷新しました

平成21年度森林・林業白書では、これまでに紹介した「トピックス」と「林業の再生に向けた生産性向上の取組(第Ⅰ章)」のほか、第Ⅱ章以下の各章で、地球温暖化と森林、森林の整備・保全、林業・山村、林産物・木材産業、国有林野の各分野における主な動向や取組について、事例を交えながら紹介しています。

また、今回の白書は、昨年と比べ、1ページ当たりの文字数を増やすとともに、読みやすさを考えて2段組に改めています。また、図表や写真・イラストの数を増やすとともに、ページをまたぐ記述を避けたり、年号の記述を統一するなど、編集上の工夫を凝らしています。是非、ご一読ください。



平成21年度森林・林業白書

平成20年度森林・林業白書

URL <http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/index.html>